

環境に係る情報協議会

国営緊急農地再編整備事業 大雪東川第二地区

1. 環境に対する考え方

(「東川町田園環境整備マスタープラン」から)

《農村環境の現状と課題》

【現状】

東川町は、全国あるいは世界的に見ても豊かで雄大な環境をもつ大雪山国立公園の町であり、この風景や環境は、町民の生活に深く根付いている。

東川町では、この景観を活かした「写真を核としたまちおこし」を行っている。

【課題】

○大雪山国立公園の優れた自然環境の保全

町域の4割が大雪山国立公園にある東川町の住民として、東川町民が自然環境に親しみを深め、その保全に努める必要がある。

○自然との共存に配慮した治山治水対策と持続可能な開発

動植物など多彩な生態系への配慮や自然の改変を最小限に抑えるなど、自然と住民生活の共存共栄する持続可能な成長と開発に努める必要があると位置付けている。

《環境保全の基本的考え方》

「次世代に継承する美しい東川の風景づくり」を基本理念とし、

○大雪山の雄大な風景と調和する田園風景をつくる。

○豊かな自然環境を活用し、発展が持続可能な町をつくる。

2. 環境配慮計画

《基本方針》

『～次世代に継承する美しい東川の風景づくり～を目指した基盤整備』

地域の環境保全に対する基本方針、森林や水辺環境など希少な生物の生息環境及び景観に配慮した整備を行う。

《取り組み内容》

【生態系への配慮】

○工事中における、下流河川や排水路における魚類生息環境に配慮し、濁水流出防止に努める。

○工事区域内に、両生類の卵のう及び個体を確認した場合は、工事区域外の生息に適した場所に移動する。

【景観への配慮】

○構造物の色彩は、山並みや周辺農地景観との調和に配慮した色を採用する。